

寶相華

巻頭四方山話

会長 瀬川 雅 数
(昭43年卒)



「玉井金五郎は、正義で、生きてきました。また、誠に、一生を貫いてきました。今、その正義と誠で、あなたを殺し、ここに、一生の幕を閉じます。」日々の生活に苦しむ沖仲仕を救うために、主人公の玉井金五郎が彼らを雇っている親方に言った台詞である。昭和大眾小説「花と龍」の一節である。作者は

火野葦平。「花と龍」は火野葦平が自分の両親を書いた私小説である。作者が両親より受けた正義観や弱い者を助ける倫理観を、作者の甥である中村哲さんは受け継いだのだろう。医師である中村さんは一九八五年にパキスタンで医療活動を始めた。その後、医療だけでは救えない弱者のために、灌漑水路の建設や農業支援に取り組むようになる。「一〇〇の診療所より一本の用水路」が住民を救うのに必要であるとして、日本の伝統技術を現地で応用し農地開発を実践した。この行動力の原

宝相華会 (同窓会) 会報 No. 81

発行者 瀬川 雅 数
編集者 藤原 正義
発行所 奈良県立同窓会
印刷所 共同精版印刷(株)

題字「寶相華」は天平時代の国宝「細字金光明最勝王經」より。(筒井寛秀((中11回))収録)

点は「弱い者」を守るといふ信念であったようだ。アフガンの英雄であり日本人の誇りでもある中村哲さんがアフガンニスタン東部地方のジャラバードで、武装グループに襲撃されて殺害された。この悲報は日本だけでなく全世界で報道された。発達した文明があつても、このような非道がなぜ起こるのか、私たちは歴史より何を学んだのか教えて欲しい。弱者を助けるために人生の大半を捧げた中村さんに対する攻撃を非難し、中村さんの業績に敬意を払い、ご冥福をお祈りします。
現在の日本社会では、弱い者を守るといふ正義観や道徳は実感できにくい社会となっている。頻繁に起こるいじめや子供の虐待が報道されるたびに、希薄になった道徳を感じる。道徳や倫理自体が社会

の文化であり、時代と共に変化していくのは止むを得ないが、それでも道徳や倫理の基本として「弱いものを守る」という教育は必要であろう。「弱い者を守る」という道徳と共に、昔よく諭されたのが「嘘を言つてはいけません」であつた。今、この言葉を習っていない高級官僚も多いようである。戦後に失つたものが今になって社会を蝕んでいく。失つたものを現在社会に合うように見つけ出しながら、残していくことを考える時期に来ている。

社会全体の幸福を保障する秩序が道徳だとすると、日本の道徳を明らかにして、社会全体で共有することである。とりわけ永遠的で変わることのない道徳というものがあると思うので、そのような道徳だけでも社会の共通認識としたい。
さて、宝相華会の事業では公式のホームページを開設しました。ホームページで掲載するトピックス等を会員より募集しています。ホームページを宝相華会の会員相互の集う場所の連絡および伝言板と

総会予告 令和二年度 宝相華会総会

日時 令和二年四月十二日(日) 十時開会

場所 ホテル日航奈良(JR奈良駅西側)

講師 柴田 浩志氏(昭和53年卒)

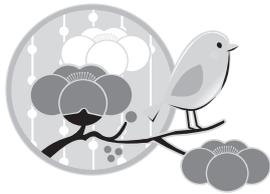
(サントリーウエルネス株式会社 取締役専務執行役員)
演題「人生100年時代」を生き抜くための健康サイエンス」

会費 五,〇〇〇円(当日受付で戴きます。)

(但し、新入会員無料。平成二十七年以降の卒業生三,〇〇〇円。)

世話係 昭和53年卒

恩師の先生方も来ていただく予定です。お誘い合せの上多数御参加下さい。
宝相華会事務局



して利用することも可能です。財界や文化さらに学会分野で活躍されている宝相華会の会員紹介も行っていきます。多くの方に利用して頂き、有意義なホームページ作りを進めたいのでご協力ご支援をお願いいたします。現在、進行中の奈良高校の校舎を映像で残すプロジェクトも順調に進んでおり、公開できる日も近いと思っております。令和五年に母校は創立百年を迎えます。記念行事についてのご意見をホームページに寄せていただければ幸いです。

最後になりましたが、令和最初の卒業生となり、新しく宝相華会の会員とされる皆様は今後の活躍を期待してきます。そして、次の詩を送ります。それは梅原猛さんが書

かれたエッセイの中で多くの若い人達に読んでほしいと述べていた詩です。

「幼き者へ」

安嶋 ひさし
(元文化庁長官)

健やかにあれよ
弱い者をいたわれよ
友を選べよ

自らを限るなよ

何者をもたのまず、誇りを持つて励めよ

安楽は人間を愚俗にする

急ぐなよ、しかし、休むなよ

憤りを発せよ、明日では遅いよ

むさぼりと、いかりと、愚かさ

さが去れば、心は平静となる

う

厭世は不毛だ

嘆いたとて何になろう

蹉跎にもめげず、澀刺とあれよ、

澄明であれよ

涙をふるって、微笑めよ

時には空を仰いで、流れる雲

を見よ

卒業生の皆さん、精一杯人生を生きてください。

新しい時代を生き抜く力を

学校長 中野善久
(昭55年卒)



東風に乗って梅の爽やかな香りがここ法蓮にも届けられ、春の息吹を感じる頃となりました。宝相華会の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。本年度も母校奈良高校に物心両面にわたり変わらぬ温かいご協力・ご支援を賜りましたことを、心より厚くお礼申し上げます。本年度も四月の総会をはじめ、七月の大阪支部総会、十一月の東京支部総会にお声がけをいただき、学校の近況を報告させていただいたことを改めて感謝申し上げます。本校の耐震整備に係る教育環境の現状については、大変ご心配をお

かけしておりますことを改めてお詫び申し上げます。生徒たちは現在の環境を決して言い訳にすることなく、「自主創造」の理念をしっかりと受け継ぎながら、各自の学校生活を創造性豊かなものに高めております。現在、生徒たちは東グラウンドの一部と西グラウンドに建てられた仮設校舎を中心にして学校生活を送っております。私が執務する建物と離れた場所で生徒たちは生活をしていますので、多くの生徒と触れ合う機会が必然的に限られ、少し寂しい思いをしているところですが、なお、仮設校舎の様子は宝相華会ホームページにおいて紹介されておりますので、ご覧ください。

さて、令和四年度四月本校の移転とともに、新しい学習指導要領が第一学年より学

進行で順次実施されます。「社会に開かれた教育課程」という理念が指導要領改訂のポイントの一つになっていきます。意図するところは、学校教育を学校内で完結させることなく、学校が目指す教育目標と社会が求めるものとの共有化を図り、生徒の実社会で生きていくための実践的な力を育成することであり、具体的には本校の教育活動に社会や世界の状況を幅広く視野に入れた視点を盛り込んでいくこととなりますが、特にAIの進化に伴う社会の産業構造の変化の波が押し寄せる一方、地球の気候変動への対応などが喫緊の課題として挙げられているところですが、そうした課題を解決し、これからの新しい時代を切り拓いていく力を学校教育において育成していくことが求められているのです。そして社会の諸課題は様々な要素が複合的に絡んでいきます。これらに対応するには、各教科固有の知識・技能だけでは不十分で、色々な教科の力を駆使して多様な視点からアプローチをし

ていく教科統合型の能力が必要になってきます。

この統合型の力を育てるための指導法として、よく言われるのが「アクティブ・ラーニング」です。この指導法の

基本的な考え方は、各教科固有の知識・技能が実際に活用されると、他教科の知識・技能とネットワーク化され、確実な力になるということ。さらに、ネットワーク化された知識・技能が生徒の体験となると、より明確なものとして、いつでもどこでも自在に使えるような定着した力になるということ。この定着した統合型の力は、将来、生徒が直面するどのような場面でも対応できるような汎用性の高い力になるという指導上の考え方です。従って、生徒は、具体的な社会の状況や生活の場面設定の中で、これまで獲得した知識・技能をフル活用して課題解決をしていく学びを行うことになります。老子の「人に授けるに魚を以つてするは、人に授けるに漁を以つてするに如かず」という言葉があります。「魚を

与えれば一日は食べていけるが、漁の仕方を教えれば一生食べていける」という意味で、まさに課題解決の方法と実践を教えることの大切さを諭えた言葉です。

本校としても生徒たちにごうした統合型の力を育成し、これからの時代を逞しく生きてほしいと思います。まずは、各界各層の第一線でご活躍されている会員の皆様の姿を積極的に発信していきたいと思えます。生徒たちは、先輩諸氏の姿から自分たちの将来の姿をイメージし、社会での活躍への意欲を高めていくと思えます。次にSSH事業を一層推進していく必要があります。これまで本校のSSH関連授業では、探究活動を重視してきました。探究活動では、答えのない課題に対して自分なりの解決策を見つけていくために色々な視点から分析・思考するために前述の教科統合型の力の育成を目指しています。さらに、多様な視点を学ぶための多様性に触れる機会として、シンガポール研修の他、昨年度より宝相

華会特別会計「奈高教育推進基金」として予算化したいただいたイギリス語学研修をはじめとする国際的素養の一層の充実を図る必要があると認識し、今後も推進してまいります。本校でのこうした取組を通じて生徒は「考える力」を高め、将来の様々な困難をきつと乗り越えてくれるものと期待しています。

改めて本校の強みはソフト面であると皆様にお伝えします。探究活動を特色とする教育内容に加えて、高い専門性を具備し、常に生徒を想い生徒に寄り添う教師の情熱と愛情が本校の魅力であります。今、春を迎え、「春風の中に坐するが如し」という中国故事が想起されます。春のそよ風がすべての物を成長させるように生徒が教師との出会いによって大きな感化と励みを得て、その後の大きな成長を遂げることを祈っています。教育環境では厳しい状況にはありますが、教師と生徒には「春風に坐す」ような関係を実現させていきたいと思えます。

最後になりますが、宝相華会の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念申し上げますとともに、次年度もこれまで同

様にご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

恩 師 の 便 り

奈良高校の今昔

坂 下 泰 沼

教諭（平20年〜在職中）
（昭52年卒）

奈良高校へ赴任して十二年目、理科（物理）を担当している。母校で勤務していること、高校生として学んだ昔のことを思い出す。グラウンドでの後夜祭・フォークダンス、西グラウンドでの球技大会、物理実験室で受けた西塾先生の授業等々。昔と今を比べることもよくある。

一九七四年四月に奈良高校へ入学、当時、近鉄新大宮駅周辺は、住宅もまばらで背の高いビルもなかった。佐保川の舗装されていない土手を通り、佐保川にかかる国鉄の鉄

橋の横を渡り通ったあの通路の風景がとても好きで、今でも鮮明に覚えている。また、入学は堅義の庭がつくられた翌年であった。アテネの学堂を模したプラトンとアリストテレスの像を見て、中学校までとは違うアカデミックな雰囲気を感じていた。

今、佐保川の沿いの道は、住宅、マンション、ホテルが建ち並び、土手も舗装され、みんなが憩えるように川縁も整備されている。大きく育った見事な桜を、毎年四月には楽しんでいますが、古き良き

四十年前の通学路と隔世の感がある。また、赴任した一年目の青丹祭で、そのプラトンとアリストテレスの像が、紅白の服を着せられ、「くいだおれ太郎」の格好をさせられているのに度肝を抜かれ、時代の流れを感じた。しかし、慣れとは恐ろしいもので、毎年の変装に期待をしている昨今である。

高校時代、柔道部に所属していたが、合宿もすべて自たちで計画をし実施していたように思う。柔道場に蚊帳を釣って雑魚寝をしたこと、真つ暗な校舎で肝試しをしたこと、近くの銭湯へ行つて一日の疲れを癒したことなども懐かしい。青丹祭でも、先生方に頼ることなく、自分たちで決めて、自分たちで行動していた。先生方は、生徒を信頼し、暖かく見守ってくださっていたのだろう。そんな中で、のびのびと活動させてもらった。失敗も数々あったが、生徒の自主性を伸ばし、高校三年間で自主創造の精神を、体験を通して少しでも学ばせてもらえたことを本

当に良かったと思っている。

昔のおおらかだった時代とは異なり、今は、時代の要請や制約があり、昔のようにのびのびとはいかないところも多い。私も知らず知らずのうちに型に嵌め込んでいるのかもしれない。自分が高校生の頃は、個性豊かで一癖も二癖もある生徒がたくさんいて、私のような素直な生徒は少数派だったと思うが、今は素直で元気な生徒さんが多くいる。あいさつをよくしてくれるし、耐震の問題で揺れる中でも、懸命に学習に取り組んでいる。不安や悩みを抱えながらも、頑張る姿が見られる。青丹祭などの学校行事で主体的に取り組んでいる様子を見て、自主創造の精神を着実に学んでいるなあとうれしく思っている。

立入禁止の校舎や体育館を横目に見ながら、日々複雑な気持ちで仕事をしているが、楽しかった思い出に浸れる場所で、毎日勤務させてもらっていることを本当に感謝している。

恩師の便り

感動と刺激を 与え続けてくれる場所

小 谷 友理香
(平23年卒)

元教諭 (平27〜31年在職)

奈良高校は、初めて赴任した学校で、また母校であるということもあり、この学校で勤務した日々は、私にとって大変貴重な時間となりました。生徒たちに助けられながら、多くの先生方にお世話になりました。一年生から三年生までの担任、またダンス部の主顧問を経験し、本当に多くのことを学ぶことができました。奈良高校で出会った全ての人に感謝しています。ありがとうございました。

初めての担任で経験値がなため、生徒に迷惑をかけることも多くあったと思います。が、いつも生徒に支えられました。行事ではクラス全体が盛り上がり、私の想像をはるかに超えるアイデアとスキルで、いつも感動を与えてくれました。文化祭では自分から各役割のリーダーを進んで引き受けてくれる子が何人もいたり、夏休みに何度も集まり主体的に計画して準備を進めてくれたり、感心させられる場面がたくさんありました。体育大会では、私は特にクラスパフォーマンスが好きでした。試行錯誤しながら、練習するたびに少しずつ完成させ、クラスがまとまっていく様子は、見ていて感動しました。

顧問をしていたダンス部では、三年間深く関わるので、各生徒の成長を感じる瞬間が非常に多くありました。はじ

めの頃は、もつと他人を思いやってほしいなとか、しっかりと挨拶してほしいなとか思うこともありましたが、三年生になるとお互いに協力しあって、自分から率先して活動するようになり、毎年自分達で良い雰囲気をつくつてくれるようになります。どの部活に所属している人も、辛い時もあると思いますが、部活動を通して自然に身に付き、得られるものはたくさんあります。一生懸命、部活動に取り組んでほしいと思います。

奈良高校の生徒は、勉強はもちろん部活やその他学校外での活動など多方面で頑張っている子が多く、いつも刺激をもらっていました。奈良高校は先生も生徒も尊敬できる部分を持つ人ばかりです。それは卒業してからも変わりません。私も、今でも定期的に高校時代の友人と会いますが、いつも刺激をもらい、自分も頑張ろうという気持ちにさせてくれます。皆さんも、卒業後も奈良高校で出会った人を大切にしてください。最後に、高校生活楽しかった



たなと思えるように、頑張る時は頑張る、楽しむ時は楽しむとめりはりをつけて過ごして、悔いの残らないように一日一日を大切にしてください。勉強も部活も行事も今しかり、奈良高校の皆さんなら、バランス良く、両立させることができると思います。楽しみながら頑張った一つ一つのことが将来につながるはず。『自主創造』の校風のもと、自分自身で考へて行動し、自分の高校生活を充実させ、自分の人生を切り拓いてもらいたいです。

題名にもしましたが、奈良高校は感動と刺激を与え続けてくれる場所です。奈良高校での経験を活かして、皆さんがそれぞれの夢を叶えられることを祈っています。

佐保奈良中・奈良高の思ひ出

村上 泰 昭

(奈中20回卒)

九十九路を越え百歳をも越えうる時となって、昭和・平成を過ごし令和を迎え、振り返ると奈中時代が懐かしい。当時の学区制では古くから奈良文化圏にあった京都府相楽郡と綴喜郡南部からは奈良中に入学が可能であった。汽車・電車での通学は近鉄線油坂の高架駅の下を潜り一直線の道路を北に進み、佐保川を渡ると校門前で、前の東西の道路は奈良時代的一条通り、敷地の東は尼寺の興福院の参道、運動場の北は一段高く佐保丘陵であった。通学スタイルは足に「ゲイトル」帽子は所謂「戦鬪帽子」で「宝相華」紋であった。学校には軍人の将校が派遣されていて、銃剣術の訓練が思ひ出され、動員の時代となる。一年先輩は名古屋方面の工場に、我々は地元での労働であった。記

憶をたどると、木炭用の木の長いのを東山地域から一人一本を引きずり奈良に運ぶ作業、八島・帯解地域の稲刈、柳本飛行場での土運び、佐保丘陵での松根油を採るための根掘りがある。特にこの掘った場所から、埴輪が出ていたが、関心があったので休日に友人と見に行ったが既になくなっていた。食糧難で運動場は畠となり、動員された年配者が穴掘を掘らされていて、その土盛りの中に奈良時代の唐草紋の軒端瓦があり拾ったが、この奈中の地あたりが萬葉集に見える「佐保」の地、佐保大納言大伴安麻呂の宅があり、旅人・家持の育った地と考えられる。天平勝寶八年の古図「東大寺山堺境四至図」に春日の里があり大伴一族の梅之和歌が知られ、そこは現在の白毫寺附近に当た

り、田村の里・坂の上里と共に大伴家の所領地で、春日の里に梅林が想定される。大和の梅林と言えは現在では「月ヶ瀬」が知られるが、天平時代平城京には「梅」の香りが漂っていた。「青丹よし寧楽の宮師は咲く花の薫ふが如く今盛りなり」(小野老朝臣)の和歌も梅とすべきで、令和の年号が九州大宰府での大伴旅人の関係者が集まった梅宴の会の「梅」と題した一行の序文から採用されたが、小野老も旅人を囲む歌サークルに居て九州に在った。「青山こもれるうるはし大和」の校歌と共に新しく移転する

と聞く新校舎には「柳に櫻」とは言はず是非「梅」をも植えてもらいたいと思ふ。奈中の同窓の仲間と各々極めた専門分野の内容を奈良で無料文化講座とし開催したが、その中に「月ヶ瀬」での「梅と美術」と題した話が思ひ出される。よる年波の中で、その会の事務担当の今西宏君も令和を迎える寸前に逝き、講師を務めた澤井、辻中、三宅の諸君なども鬼籍入りしたが有意義な活動であった。奈良中、奈良高校の卒業生の諸君がその極めた諸々の事と人生体験を後輩に母校で語る機会があればと願うものである。

「豎義の庭」に思う

顧問 藤本 忠彦

(昭31年卒)

母校中庭の噴水に囲まれた二体の銅像のある「豎義の庭」は、昭和四十八年母校創立五十周年記念事業として、宝相華会と育友会が共同で設



置したものである。

「豎義」(りゅうぎ)とは、むかし、東大寺・興福寺や延暦寺等の学僧達が師の僧の指導のもとに正しい道理を堅てた儀式のことで、東大寺ゆかりの宝相華を校章とする本校において、意義ある事業であった。

この庭の考案は、古代ギリシャ文明が、東西文明発展の基礎となったという、世界史の雄大な構想によるものである。

段丘中央にある銅像二体の、「アテネの学童」は、ギリシャの哲学者、プラトンと



アリストテレスが、真に学問する姿を現したものであり、製作担当の奈良教育大学の杉村教授は、ギリシャまで出向き現地の壁画を写しとって来ていただいたものである。

この銅像を設置された趣旨は、真に学問する姿を本校に再現し、建学の精神に則り、伝統の創造的再興を図ることであり、明日を担う有為な人材が、数多く巣立ち行くことを確信し、念願する意が込められている。

なお本校は、令和四年に現在の平城高校へ移ることとなるが、噴水はさておき、せめ

て銅像だけは是非とも移設したいものである。

時あたかも令和五年は、本校創立百周年の慶賀すべき年にあたり、その意義を一層高

昭和36年卒有志の信州蕎麦旅行

森川 司

(昭和36年卒)



我々昭和36年卒は、概ね喜寿を過ぎようとしている。今から十七年前の六十歳の春に上原、京野、中村、森川の四名で、開田高原まで日帰りの蕎麦旅行をしたのが始まりで、この話が同級生に伝わり、蕎麦好き何名かが名乗りをあげ、早速その年の秋に第一回が始まった。当時はまだ仕事を持つ者も多く、参加者は毎回数名であった。毎回の

まらしめ、この理念と精神が、次の世紀に連綿と継承されることを大いに期待したい。

計画立案は私の役目、私にとつてはこの役目も旅行の楽しみの一つであった。私の計画通り毎回の旅行は進められたが、その中でも特に思い出深いものを、四つ紹介させてもらいます。紹介に先立ちこの旅行のコンセプトを述べる。基本的には一泊旅行。昼食は全て蕎麦を喰う。昼間は全員飲酒禁止。一日一回立寄湯に浸る。そして安全運転と早目の運転交代。この繰返しが続いた七十歳迄の十年間であった。

を北上し、大町市新行高原の超人気の蕎麦屋「山品」にて信州最初の蕎麦を食べた。蕎麦屋といえど、白い蕎麦の花咲く蕎麦畑にぼつんと一軒ある田舎家に、のれんと看板が掛かる素朴なお店。でも中に入ると全国から集まった蕎麦好きで超満員には驚いた。

二〇〇五年春も参加者は六名で、旅館に泊らずバンガローに泊り夕食は自炊であった。近くのスーパーで食材を買ひ、鍋を楽しんだ。横を流れる鹿島川の水音が夜通し聞え、自然の中に居ることの心地良さを実感した。川岸に咲く菜の花の黄色と、背後に広がる雄大な北アルプスの残雪の白が印象的であった。昼食の蕎麦は、大町市の老舗「こばやし」にていただいた。

二〇〇八年春の旅行は参加者も一番多い十名で、車三台を連ねて北信濃、飯山を訪ねる旅であった。早朝に、木島平村の馬曲(まぐせ)温泉に立ちより、朝食と見晴らし抜群の露天風呂で旅の疲れと眠気を取るため、しばしの休憩。仮眠の後に、千曲川添にある



「菜の花公園」を、当地出身の作詞家「高野辰之」の朧月夜や故郷の歌詞を思い出しながら、日本の原風景として楽しみなが楽しんだ。もう一ヶ所は菜の花公園の奥にある、当時の映画「阿弥陀堂だより」(寺尾聰、樋口可南子、北林谷栄出演)のロケ地跡のお堂を見学し映画を振り返った。午後は目的の蕎麦喰いで、飯山市の北富倉にある「はしば食堂」まで出掛け、北信濃の名物「富倉蕎麦」を食べた。ここの蕎麦はつなぎに「雄山火口」(おやまぼくち)と言う山ごぼうの葉の繊維を使ったもの。独特の風味と腰のある絶品の蕎麦で

あった。同時に出来る「富倉すし」なる笹の葉すしの上に乗せられた紅しょうがの赤も忘れられない。宿泊した戸狩温泉のスキー旅館「かのえ」での夕食は、旅館の美人の娘さんがお酌に廻るとあって、おおいに盛り上った。

ただ一回だけ二〇〇九年秋に、信州蕎麦旅行といいながら、奥飛騨を巡った旅がある。メンバーの一人、中村君の御子息さんに岐阜県神岡鉱山の地下にある「カミオカンデ」なる宇宙線観測施設の内부를案内と説明を受けた。宿泊は奥飛騨の新穂高温泉「深山荘」で。旅館の表を流れる高原川の河原にある野天風呂は、野生味満天の川風呂であった。翌日は宿の向いの西穂高ロープウェイで展望まで登り、残雪多き穂高の山々と焼岳を眺めて下山した。この時の蕎麦は、高山市内で、各自好きな蕎麦屋を選んで店に

入って、飛騨の蕎麦を味わった。

他にも印象深い蕎麦旅行は数々あったが、今回はこの四つの紹介に留めておく。

七十歳を迎えて、誰言うこととなく自動車での長距離旅行はこれ以上無理とのこと、この年をもって蕎麦旅行は終了にした。

信州蕎麦旅行十年間の参加人員は有山喜七郎、上原勲、京野邦男、坂倉茂樹、鳥居一康、鳥井繁夫、玉置昭二郎、中村弘、浪越肇、橋本紘一郎、藤原正義、森川司の十二



名(うち坂倉、玉置、橋本の三名は故人)

十二人のメンバーの中でフル参加は私のみであった。

私はこの信州蕎麦旅行を通じて、今迄以上に蕎麦と信州のファンになったし、参加の皆さんもきつとそうだと信じている。

以後は電車で訪れる蕎麦旅行を、越前、出雲、高知等楽しんで、時々JR奈良駅近くの「出雲そば だんだん」の店にて蕎麦談議を重ねている。終りに十二名のメンバーの中で、一足先に故人となった、玉置、橋本、坂倉の三名に、我々の蕎麦旅行が母校全体に知れる事になったことを伝えて筆を置く。

百年を生きる心 太極拳を友として

柳 祥子
(昭39年卒)

上田様御夫婦を通じて原稿依頼があったので、これも何かの縁と思い引受けることにしました。

私は英語教師として三十八年間、奈良市内の中学校で勤務し、定年退職しました。それまで、仕事と家庭との両立でゆとりがなかったため、心の奥に仕舞っていた、大好きな手芸や書道を習い始めました。最初はそれらを楽しく

習っていたのですが、二年後の秋に、木津川市役所別館で『太極拳講座』が開講されたのです。同時に、その二階では『日本語教師養成講座』も始められました。どちらにも強い関心があったので随分迷いましたが、結局『太極拳講座』を選びました。これから、年齢を重ねれば重ねるほど体を動かすことが大事だと思っただけです。あれから十



一年、今は太極拳に出会えたことに感謝しています。『芸は間口を広げないで深めよ』の言葉通り、私は太極拳に夢中になり、奥深さ、難しさ、面白さが解ってきて、今は他の習い事をすべてやめ、太極拳中心の生活になりました。最初に出会ったのは楊名時健康太極拳です。これは中国で制定された簡化二十四式を基本にして、日本人向けにアレンジされた太極拳で、ゆっくり動き、調心・調息・調身を重視しています。意識を集中して、ゆっくりした動きに身を任せていると、心が静まり、そのあとにはさわやかな

自分を取り戻すことができず。心身の健康を保つためには、日常の忙しさ、煩わしさを一時的に忘れることが大事です。太極拳は心静かに、力を用いず、柔軟に動くため心ちよさを生み出してくれます。心身の安定をもたらしにくれるのです。その上、太極拳は何歳になっても始めることができます。若い人の太極拳も、年輩の人の太極拳も、それぞれの良さがあります。若い人の太極拳にはエネルギーがあり、洗刺とした良さがあり、年輩の人の太極拳には円熟した良さがあるので、年齢を意識せずにできるのが

何よりいいところです。楊名時健康太極拳を始めて十年を越えると、二十四式だけでなく、太極剣や太極扇も習いたいと思つたのです。それで、二年前から武術太極拳教室へも通い始めました。楊名時二十四式とかなり違うので、戸惑うこともあります。けれど、その違いを意識して演武すると、脳が活性化されるのを感じることができ、さらに、総合四十二式や楊式太極拳を学ぶと、新しい型を覚える楽しさや充実感も生まれてきました。この教室の先生は高齢にもかかわらず、年齢を感じさせないやる気、活力に溢れ、若い者も圧倒されます。「私も若い人に元気を与えることができるような人になりたい」と思いました。ゆくゆくは教室を持って太極拳を教えよう。みんなの健康幸せを願って、太極拳を広めよう。そして老いを愉しめる自分を見つけよう。その思いが実現しました。今年の三月（平成三十一年三月）に教室を開くことができたのです。その時がこんなに早く来ると

は思ってもいませんでした。それは二月のある日、近所に住むAさんとひょっこり出会った時、「太極拳を教えてください」と言われたのです。Aさんは「私は交感神経と副交感神経のバランスがとれていないので、太極拳のようなゆっくりした運動が体にいいのではないかなあ」と言つたので、私は「あなたの言う通り、太極拳がいいと思う」と答え、内心教室開設のチャンスだと思いました。教室を開設したいと思つても、来てくれる人がいるのかどうか定かでないのに、一人で先走るのも躊躇します。機会が偶然巡ってきたのです。教室開設に向けて彼女といっしょに行動できたのは、心強く、ラッキーでした。早速、自治会の役員に頼み、近くの集会所で教室を開設することができ、彼女の御蔭で人数も増えてきました。

現在教室のメンバーは十四人。七十代四人、六十代五人、五十代五人です。最年長者七十九歳のBさんは、「彼女はこのグループの中で最年長です」と私が言つた時、素早く、「皆さんと同じ年齢です」と言い換えるほど、気が若い人です。太極拳以外にもヨガをやったり、手芸・お菓子作り等多才です。練習後みんな、彼女の手作りのお菓子をいただきます。和やかな雰囲気になります。七十四歳のCさんは、近くに住む娘一家の家事を毎日こなし、休む間もなく忙しい人です。それでも気分転換になるのか元気な顔を見せてくれます。何でも、納得がいくまで頑張る人です。七十二歳のAさんは「太極拳教えて」と声をかけてくれた人で、どんなことでも相談できる頼りがいのある人です。私が「ある事で悩んでいる」と相談すれば、なるほどと思える返答をしてくれるので心が落ち着きます。彼女に誘われて私もジムへ行き始めました。他に、洋裁も習っていて、私の太極拳パンツやTシャツも彼女の手作りです。それを着て表演すると、この上なく幸せな気分になります。七十歳のDさんは、一番遅く仲間入りした人で、初め



ての練習の後「難しく、ついでいけなかつたけど楽しいです」という感想とその時の満面の笑みが印象的でした。六十九歳のEさんは、助産婦さんなので健康に関する知識は豊富です。だから、参考になることが多く、側面的に助けられています。何より驚いたのは、彼女はとも気丈な女性であるということです。十年前、交通事故に遭い、肺挫傷、心肺停止、両腕骨折、

肋骨骨折という重体の状態から、奇跡的に命を救われたそうです。厳しいりハビリを乗り越え、ジムで筋トレやウォーキングに励み、今また、やる気満々で、太極拳に取り組み姿に感動させられます。六十六歳のFさんは、友人が多く、どんなことにも素早く行動する実行力と、粘り強く取り組むパワーがあります。会員が増えたのは、彼女が熱心に声をかけて誘ってくれたからです。同じく六十六歳のGさんは、

教職を退いてから、着付の資格を取得。仕事の合間に太極拳に参加しています。彼女は活発で、持ち前のユーモアと明るさで、教室に活気をもたらしてくれまます。六十四歳のHさんは、御主人が経営されていた会社を引き継いでいます。自分自身の健康のため、時々、仕事帰りに教室へ寄つてくれます。六十歳のIさんは、練習熱心で気配りがとても自然です。彼女の伯父さんのことを聞いた

時は驚きました。九十四歳の彼は、ジムに通い、周囲の人になんて元気を与え、みんなの目標です。妹に会いに、茅ヶ崎から京都まで一人で来られます。彼の口癖は「人は、やる気が大事や」だそう。それを見事に実践されているのです。ぜひ、お手本にしたいものです。五十代の人は覚えが早く、動きもスムーズにできています。何でも早く始めるのはいいですね。ちょっと羨ましいです。

人間一人一人個性があるように、太極拳も十人いると十色の太極拳があります。けれど、みんなと気を合わせて、『自分を大切に、仲間を大切に』をモットーに、みんな練習していると、楽しく、生き生きとした時間を持つことができます。こうして、地域の人との新しい出会いを得て、繋がりができたのは幸せなことです。高齢化が進み、いよいよ、人生百年時代が身近に感じられるようになってきています。いつまでも自分の足で歩ける、元氣な暮らし

を実現させたい。それを得るにはどうすればいいのでしょうか。それは心です。心がすべてを創り出すのです。心を動か

奈良高校で学んだこと

神戸市外国語大学英米学科四年 平 沼 優 奈 (平27年卒)

し、気を動かし、体を動かして健康を得る。それを、仲間とともに、太極拳に求めていきたいです。

私が今まで生きてきた二十二年間で、一番楽しかった時代はいつかと聞かれたら、迷いなく、奈良高校で過ごした濃い三年間と答えるでしょう。とてつもないスピードで進んでいく授業に四苦八苦し、吹奏楽部では自分の演奏に納得いかずに伸び悩んだりしながらも、仲間と一緒にひとつのサウンドを作り上げる達成感を味わい、文化祭や体育大会などの行事にはクラスのみならず、本気で取り組んだり、本気で全ても鮮明に胸に焼き付けています。私が特に、

「奈良高校」というコミュニケーションで素晴らしいと思えるところは、「みんなが当たり前個性を認められる環境」であることです。日本語には「出る杭は打たれる」という諺がありますが、私の小学校や中学校時代は、まさにこの諺通りの環境でした。例えば、勉強ができて、テストの点数がいつも高得点だと、「優等生ぶってる」だとか、英語の発音が綺麗だと、「かっこつけててダサイ」だとか、休み時間に小説や漫画を作れば、「みんなと遊ばない変なやつ」と揶揄されたりだとか。ちょっとでも「普通

「の子」からずれば寄つてたかつて非難する、そんな雰囲気の中で生活してきました。奈良高校に入学して驚いたのは、今まで自分が目指すよう期待されていた「普通の子」がおらず、また、周りでの人の個性を認め合う雰囲気が出来上がっていたことです。

「勉強が好き!」、「作曲します!」、「スポーツ頑張りたい!」と、みんな堂々と自分の得意なこと、好きなことを表明し、周囲はそれを「いいね! かつこいい!」と応援する: 「出る杭は打たれる」どころか「出る杭はもつと引っこ抜かれる」ような環境だったのです! 自分のアイデンティティの形成に重要な高校三年間を、このような素晴らしい環境で過ごすことができます。

卒業から五年、私は現在、言語学博士号を習得するため、アメリカ大学院入学を目指して勉強しています。大学を卒業し、企業に務める日々を送っている同級生がほとんどの中、このような「普通

ない」選択肢をとる勇気が持てたのは、間違いなく奈良高校での経験のおかげだと思います。この際「出る杭がもつと引っこ抜かれる」ように宣言しておく、博士号を習得した後は、大学教員として就職し、音声・音韻の分野で世界的に有名な言語学者とし

て、日本語や英語をはじめとする言語の音声習得方法論の発展に貢献していきたいと思えます。いや、もういつそ貢献する、と断言します。大学教員は就職が厳しいと言われるのですが、私はそのポストをこじ開けたいと思います。「普通」ではないので!

東京支部だより

二〇一九年度寶相華会「東京支部定例総会」の開催

支部長 阿部 洋 己

(昭31年卒)



秋も深まり、当日は快晴に恵まれ十一月九日(土) 例年通り、日比谷公園に、隣接した法曹会館で開催された。折

しも当日は「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」が会場に、ほど近い皇居正門石橋で行われることや翌日、「祝賀御列の儀」祝賀パレードが行われることで沿道は警備の警察官で物々しい雰囲気ではあったが慶事に相応しい明るい空気が流れていた。会場は元は法曹界のために

造られたとか、会館玄関を入ると重厚なロビー、毎年の会場ながら格式を感じさせる雰囲気だ。本年も七十名余の会員の方々が集まってくださり、母校からは新任の中野義久学校長、伊吹徹教頭、宝相華会からは瀬川雅数会長がお見えいただき、支部総会に花



を添えていただいた。会に先立ち、四名の物故者の方々への黙祷をささげた。開会宣言が司会者の谷口律子さん(昭52年卒)によって行われた後、阿部支部長の挨拶があり、冒頭に上記四名の方のご紹介があつて、報告を含めた今年の振り返り、来年度以降も活発な支部活動、会員増強を目指した取り組み、支部ホームページの検討などの所信表明が行われた。慣例に従い、阿部支部長が総会の議長に選任され、議事の進行に入る。本年度の活動報告が事務局の菅原潤一さん(昭44年卒)、会計報告が同じく事務局の玉越靖彦さん(昭46年卒)、会計監査

報告が会計監事の植嶋平治さん(昭47年卒)から行われた後、一括して審議の結果、全員異議なく承認された。

引き続き、来年度の活動計画および予算案の説明が行われ、散策の集いや懇親ゴルフ会を始めとした会員の交流をより活発にして行くこと、また、来年度の総会を二〇二〇年十一月十四日(土)に開催することなど、異議なく了承された。

続いて議長から役員への信任についての説明があり、退任の役員が承認された。新たに阪本清人さん(昭43年卒)、阪本史代さん(昭43年卒)、林真理子さん(昭62年卒)、藤本匡彦さん(平4年卒)、中安理恵さん(平11年卒)の五人の方を加え、初の平成卒のお二人の加入で若返りが図れました。退任の和田宏さん(昭41年卒)は事務局を担当していたなど永年のご尽力、ありがとうございました。総会の議事終了後、続いて来賓の中野校長先生からお祝辞をいただいた。校長先生と

しては初めてのご挨拶で、令和四年、平城高校跡地に新校舎が出来るまで仮校舎、体育館の問題など諸々、不便はあるがその中で教職員一丸となつて、事に当たり、従来の奈良高校の「自主創造」の伝統は引き継いで行きたいので今後も皆様方のご支援をお願いしたい。本年度も在校生の活躍ぶりは目を見張るものがあった。文化面では、平成十六年以来スパーサイエンスハイスクールの拠点校として活躍を続けている。ロンドン大学での語学研修、また七月には三十四名がシンガポール大学に研修に赴くなど自主創造の精神は息づいており、一方、今年度の入試状況は京大・阪大・神戸大で二二六名の合格実績を残すことが出来た。その他北大に八名など生徒は本当に頑張ってくれた。また一方、運動面では弓道部が県団体二位、個人優勝。野球部は県予選ベスト四、準決勝で敗れた天理高校が近畿地区大会で優勝したため、選抜には二十一世紀枠で推薦される可能性もあるとのこと。

ボルダリング部、陸上、サッカー部などが活躍してくれた。学校の場所は変わるが文武両道、自主創造の伝統は変わらずに引き継いで行きたいと締めくくられた。

引き続き、瀬川会長からご挨拶があり、今年の本部の行事として、四月の総会には二五〇名の会員が集まって盛大に行われ、本部の役員の変更などの紹介があった。後四年で創立一〇〇周年を迎えるための準備をはじめ、その支援のためにご寄付の協力へのお願いと、最後により充実したホームページの立ち上げ、来年四月十二日(日)にホテル日航奈良で行われる総会へのご案内と出席の要請でのご祝



辞に替えられた。

続いて第二部「記念講演 私が見たブラジル」に移り、司会の谷口さんから講師の阪本史代さん(昭43年卒)が紹介された。阪本さんは日本の大学等で外国人に日本語講師として活躍されて来られた実績をかわれて、JICAから選抜されてブラジルに派遣され、その体験談をたくさんのお話で写真と共に楽しくお話しいただいた。現地での多くのご苦労を苦労ともされずにたくましく乗り越えられ、ブラジルとの懸け橋になるうとされる姿勢に会場のメンバーの多くが感銘を受けた。万雷の拍手がそれを如実に表していた。





講演の詳しい内容はHPなどでご紹介があると思われるのでそちらに譲ることにいたします。

第三部の懇親会は中安理恵さん(平11年卒)の司会で乾

大阪支部だより

今年度のノーベル化学賞

大阪支部 支部長 橋本武一

(昭39年卒)

杯の後は卒業年次を超えて広く親睦の輪が広がり、和気あいあいの内に時間はあっという間に過ぎて最後に恒例の奈良高校校歌合唱で有意義な会合に幕を降ろした。

より繰り返して使用できる電池(蓄電池とか二次電池とか呼ばれます)です。二年後に、吉野さんが所属していた旭化成と東芝の合弁会社エィ・ティイーバッテリーが、三年後に三洋電機が生産を開始し、一時は世界の九十%のシェアを日本企業が握っていた市場でした。現在では、中国企業や韓国企業がシェアを伸ばしており、日本のシェアは低くなっていきます。

一九八〇年代は、パーソナルコンピューターやデジタルカメラ、携帯電話などの携帯電子機器が開発され、高い電気容量を持つ小型の二次電池の開発が囑望されていた時代で、多くの研究者が研究開発に取り組んでいました。今回受賞された三人の化学者の一人、ニューヨーク州立大学のマイケル・スタンリー・ウィットエンガム教授は、

一九七六年、正極に二硫化チタン、負極に金属リチウムを使った二次電池で、リチウムイオンが充放電に伴って正極と負極の間を移動し二硫化チタンのような層状化合物の層

間に取り込まれる(専門的にはインターカレーションといいます)ことを発見しています。また、ジョン・グッドイナフ教授は一九八〇年にリチウムイオン電池の正極物質として最適なコバルト酸リチウムを日本人研究者とともに見出しています。そしてその特許は当時所属していた英国王立研究所が取得しました。そして旭化成名誉フェローの吉野さんは、一九八五年、負極に炭素材料、正極にコバルト酸リチウムを使ったリチウムイオン電池の基本概念を確立しました。

私は、一九六八年に大学を卒業し、アルミニウムを製錬する会社に就職し、その後、六年ほどして、親戚が経営する無機化学品の製造会社に転職しました。その会社では、亜鉛、マンガン、ニッケル、コバルトなどの非鉄金属と呼ばれる金属原料から化学反応で金属化合物(酸化物、水酸化物、炭酸塩、硫酸塩等)を製造する会社でした。

ソニーは電池事業への進出は他の電機メーカーに比べて



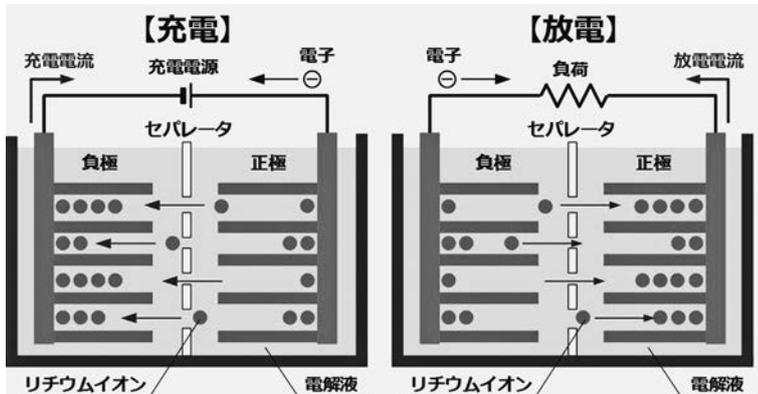
十一月の後半にうれしいニュースが飛び込んできました。今年度のノーベル化学賞

に、リチウムイオン電池の開発が評価され、旭化成名誉フェローの吉野彰さん、ニューヨーク州立大学のマイケル・スタンリー・ウィットエンガム教授、テキサス大

学のジョン・グッドイナフ教授が十二月十一日に受賞を受けられることが決まったことでした。私も、リチウムイオン電池の実用化の草創期に、仕事を通じてかかわりを持った経験があり、リチウムイオン電池が評価されたことがとてもうれしかったです。

リチウムイオン電池は、一九九一年、ソニーと米国のユニオンカーバイドとの合弁会社であるソニー・エバレディ(一九七五年設立)が世界で初めて実用化した充電に

リチウムイオン電池が
充放電（充電と放電）する仕組み



リチウムイオン電池の充放電の仕組みは、充電時、正極の LiCoO_2 から Li イオンが抜けて負極のカーボンの層間にインターカレーションで入り込みます。放電時は逆に負極カーボンに入っていた Li イオンが正極に戻り外部の負荷に電流が流れる仕組みになっています。

遅く、当時は酸化銀電池などの充放電のできない乾電池（一次電池ともいいます）しか生産していませんでした。一九八〇年ごろ、酸化銀電池の材料の酸化銀 (Ag_2O) の価格が高騰し、一部を他の酸化物で置き換える研究をされていて、材料の共同開発研究を依頼され、その結果、銀の半分をニッケルに置き換えた複合化合物、銀ニッケライト

(AgNiO_2) が酸化銀と遜色ない正極材料で、電気抵抗も小さい電極に適した材料と分り実用化しました。京都の国際会議場で国際電池学会が開催された時、ソニーの研究者と京都大学の化学の教授と食事した時に教授から銀ニッケライトはデラフォサイト型の結晶構造を持ち一価のイオンである銀 (Ag) と三価イオンを持つニッケル (Ni)

の層状構造を持つ複合酸化物であることを教えていただきました。実は、リチウムイオン電池の正極剤であるコバルト酸リチウム (LiCoO_2) も同じ結晶構造を持つデラフォサイト系の結晶で、現在は、ハイブリッド自動車 (HV) や電気自動車用には、コバルトの一部または全部を、マンガン (Mn) やニッケル (Ni) に置き換えて価格を抑えた正極材料が開発されています。ソニー・エバレデイが量産化するにあたり、当社が酸化コバルトを供給し、のちにはコバルト酸リチウムままで加工して供給させていただきました。ソニー・エバレデイは、その後社名を変更し、さらに、二〇一七年二次電池部門を村田製作所に譲渡しています。

今回のノーベル化学賞のニュースは、三十年ほど前の出来事を思い出させてくれました。

今後のリチウムイオン電池は、発電が不安定な太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの普及に必要な蓄

電池として、また電気自動車蓄電池としての大きな役割が期待されていて、同時期にスペインのマドリッドで開催された国連の気候変動枠組み条約締結国会議 (COP25) での地球温暖化防止の各国の取組にも期待される技術の一つとなっています。

これからの研究者や技術者は、AI (人工知能) や IoT (もののインターネット)、

ともしび会だより

知床、羅臼のシマフクロウと

豊穡の海

ともしび会会長 大西 純 一

(定昭42年卒)

シマフクロウは全長七〇cm ぐらい、翼開長一八〇cm にもなる世界最大級のフクロウで日本では北海道の中部、東部の海岸、河川、湖沼の周囲の森に生息する天然記念物、希少野生動物種に指定されています。

て、生息地の森に営巣出来る巨木が伐採され激減した。日本野鳥の会等による人工の巣箱の設置や一〇〇年先を見越した大木に育つ木々の植林等保護活動の成果も出て来て、現在一六五羽 (二〇一八年時

RPA (ロボットによる業務自動化) 等のような深く専門的な知識が必要な分野とリチウムイオン電池のような正極材料、負極材料、それを隔てるセパレータ、電解質など各材料の固有分野の知識を最終的に集約して二次電池として一つの機能を発揮させるための広く全方向に張った情報収集能力も必要と思われれます。

点)ぐらゐまで増えています。憧れのシマフクロウに会いに行くべく、七月初めに羅臼のチトライ川に生息する野生のシマフクロウを観察できる民宿「鷺の宿」に宿をとる。宿の前の川に給餌池が造られヤマメやオシロコマが放されていて夜間それを獲りに来ます。シマフクロウは全くの暗闇では魚を探すことは出来ません。魚を見つけやすい夕暮れ時の様な最適な照度で、またこうした暗い照度でも、良い写真が撮れるよう照明の点灯方法にも特別の工夫をこらしているようです。ストロボが無くても鮮明な写真が撮れますので、ストロボは禁止です。給餌池にも工夫がなされ、川よりも深く自然の淵に似せてあり、中に石を置き魚の隠れ場を造り、川で獲るよりも難しい状況にし、フクロウはまず自然の魚を獲ろうとし、川に魚が見つからない時に池の魚を狙うようにしています。今日のバーダーは八名で早



シマフクロウ

めに夕食を済ませて、観察小屋で鳥談議に花を咲かせてカメラの用意もすべてOK。後は待つばかり、しかしなかなかやって来てはくれない。自然が相手なのだからそうは旨くないかない。それでも辛抱強く待つのみ。やつとその時が来た。九時過ぎに誰かが来たとか叫び、皆一斉にカメラにむかう。さすがに大きい、しばらくの様子を見ながら上手く魚を捉えて森の中へとびさる。長いときは三〇分ぐらい留まり、一晩に三回ぐらい来るようです。雛が生まれると頻繁に来るようですが今年繁殖に失敗したようです。一年に生まれる雛は二〇羽ぐらいだそうですから、なかなか数は増えません。来年は繁殖に成功してくれそうです。皆さん一二時を回ってもまだね

ばっています。私は眠くなり満足して部屋に帰りました。寝酒が美味い。翌日は海です。羅臼港からクルーズ船に乗り北方領土国後島との日露中間ライン付近までクルージングです。シャチの様子テレビ放映されたせいか、五〇人乗りの船は満員です。一週間先まで予約で一杯だそうです。今日はお天気も良く、波も穏やかで期待できます。羅臼港防波堤のカモメ達とひとときわ大きいオジロワシに見送られて出港、外海に出るとすぐに海を埋め尽くすようなハシボソミズナギドリの数万羽の大群が、遙かオーストラリアから根室海峡へ来ています。その中を船は突き進み、鳥たちは凄いい音を立てて飛び立つ様は圧巻です。三隻ほど出ているクルーズ船が互いに連絡を取り合いクジラ、シャチを探します。遠くに汐吹が上がり大きな背びれが見えます。シャチの群れが近づいて来、船からは歓声があがり思いつき良くジャンプして白黒の模様もハッキリと見え、大

サービスです。シャチは好奇心が旺盛で暫く船と一緒に泳ぎそして去っていききました。クジラ発見の報が入り急行する。船はクジラから五〇m以内には近づかないというルールがあるそうです。マッコウクジラが一八mもある巨体を見せておおきな尾びれを高く

知って得・覚えて得情報

森本 貞男

(定昭42年卒)

(病気)
昔は、病は「氣」からと言われていました。現在はどうでしょうか。病は「口」からと言われています。食物が豊富にあり過食となりバランスがとれなくなった結果、病気の種類が雑多になってきているようです。食べ過ぎに注意。

(疲労)

疲れは万病の元、疲れを残さないように。四十二度以上

(死亡順位)

- 一位 悪性新生物(がん)
- 二位 心臓疾患
- 三位 肺炎(女性老衰)

の熱めのお風呂は、かえって疲れが溜まる。目の疲れは自律神経の疲れからきている。何かして「あきる」という現象は脳の疲れからきていて体を休めなさいという「サイン」のようです。その日のうちに疲れを取り、疲れを溜めない生活を心がけること。

四位 脳血管疾患

(がんの死亡順位)

一位 肺がん(男)

大腸がん(女)

二位 胃がん(男)

肺がん(女)

三位 大腸がん(男)

膵臓がん(女)

四位 肝臓がん(男)

胃がん(女)

五位 膵臓がん(男)

乳がん(女)

膵臓がん、乳がん共に増加傾向にある。

(サプリメント)

自然食品、健康食品販売店で免疫力アップや予防健康補助食品として、予防サプリメントが販売されています。酵素やミネラル等、各店舗で同じような品が名を変え説明を変え、言葉たくみに購入を促がしています。製品の見分け方の参考として、箱に書かれている原料覧には、入っている量の多い順に記載があります。必ず原材料覧を見て、他社製品と比較検討してから購入を考慮するのが良いのでは。アミノ

酸なども筋肉を増強するものであるが、種類だけの単体摂取では偏ってしまし、運動だけでも駄目だと言われています。

(食事)

L P S 免疫細胞を活性化させ L P S を多く含む物をとる。小麦・明日葉・レンコン・ホーレン草・トマト・米ぬか・わかめ・芽かぶ等
細胞↓代謝↓腸↓二十四時間に入れ替わる。生姜は体を温め解毒作用がある。体にサビを作らないように、コゲ・酸化物・糖化物を摂らず旬の野菜を食べると良い。特にごぼうが良いように効果としては、サビ取り、弾力性が戻る、むくみ・高血圧・腸内体温アップ(体温計は耳温計が良い)リンパの炎症、痛み、しびれ、毛細血管や赤血球の流れ等に効果有り。ごぼうは皮をむかずに土を落とし水にさらし、すぐに黒くなるので白いうちに料理し食べる。さらした水は捨てずに味噌汁等に使用すると良いようです。
肉の効用(鶏・牛・豚)



鶏肉は体を温め肝臓に良い。牛肉は体を熱くし脾臓に良い。豚肉は体を冷やすので夏場にシヤブシヤブ、冷シヤブで食べると良い。

みそ汁は一日三回食べると乳がんが四〇%減少する。塩分の摂り過ぎに注意しながら。
酢・もろみ酢・黒酢等でクエン酸を多く含む酢は良い。砂糖分を多く含む甘い酢は、良くないといわれている。
りんご等切り口が茶色くなっている部分は酸化しているので、切り落として捨てて食べないこと。
添加物は食べないこと
添加物が入っているかの見分け方は、液体ボトル、ビン入りは、振ってみて泡が立てば添加物が入っていない。泡が立たない物は添加物が入っている。年間何キロもの添加物を摂取している。特に日本

は添加物摂取量ワーストワンである。今後は極力摂取しないように心がけましょう。
発酵食品、酵素、ミネラル
甘くない酢等を偏らずにバランス良く摂り、体力増強に努めましょう。

(歯周病)

生まれた時、歯周病菌を持つているかどうかで決まり、九〇%以上の人が菌を持つているそうです。一度治療し除菌すれば再発しないが、菌は体内にすぐ入りこみ内臓に回るそうです。疲れを溜めないように。

(老人つてどんな人)

家を建てる時には、土台、梁が重要ですが老人の「老」を分解すると土/ヒとなり、土台が傾いた人となる。老人とは健康から離れて行く人という意味のようです。

(「いただきます」の考え方)

食物には生命が宿っています。その生命を私の命に変えて「いただきます」と感謝の気持ちをもって、いただく

という意味のようです。心を込めて「いただきます」の毎日をおくりましょう。

ともしび会行事予定

・定時制支部「ともしび会」

「第十回単独総会」開催

令和二年六月二十八日(日)

ホテルリガール春日野

十一時より総会

十二時より懇親会

会費 八、〇〇〇円



つどい会だより

通信制を顧みて



石田 恒夫

(通昭58年卒)

私は中卒（昭和26年）以来二十八年振りに、奈良高校通信制課程に入学させていただきました。高校のレベルや内容など全く予備知識などなく机と教科書などと対面する事を決め、多分自信の無い自分にはレベルが高過ぎる事も覚悟を決め半年で退学だと自問自答しながら、日曜スクーリングの仲間や先生方とも悩みなどを打明け乍らも半年を過ぎた頃、同じ悩みを持つ仲間と出合う事ができました。色々話し合っている内に、もう半年だけ頑張ってみようと思

意をして先生や他の友人にも励まされ教わったりして過していました。彼はいつの間にか姿を見る事が出来なくなり、退学となったようです。親友だった仲間と別れ一時は淋しい思いもありました。が継続は力という言葉聞いた事をもふと思い出し、曲りなりにも継続する事を決心しました。しかし四年生の人は雲の上の存在にしか写らず、どの様な勉強方法でクリアーされたのだろうと思う事も度々でした。

ただで苦楽を共にされた仲間をつながりは無いのかと、私なりに疑問に思い淋しい存在にさえ思え、教頭先生におたずねしましたが現在では組織は無いとのご返事を頂き、私も個々の卒業生で終りになるのかと残念に思った事もありました。その後、同じ思いの有志数人と何度か話し合いを重ね組織の実現に苦心などしましたが結果、全くの無から有への結論には程遠く、一時保留にしようとの結果に至りました。しかし自主創造をモットーとした母校通信制でお互いに、苦楽を共にし、助け合った学び舎であり、又生涯学習の大切や重要性を自分なりに学び事が出来た。二度と経験する事も出来ない四年間を、集い想い出を語り合う場が必要だと個人的にも痛感していました。又成立すべく周りの方々からも後押しをして頂く声を度々聞く様になり宝相華会名誉会長の河合様や、ともしび会会長の北谷様、通信制の先生方、卒業の諸先輩など多くの暖かいご指導やご支援を頂戴しました。

特に沢井会長様からは宝相華会の仲間入りを楽しみに待っていますとの喜びのお言葉も頂き試行錯誤の末、通信制支部「つどい会」として発足する事が出来ました。ともしび会より約十五年後輩としての会でした。場所は春日野荘うねびの間で四十八名の卒業生が一堂に会し平成七年二月五日に共々に喜びを語り合うつどいとなりました。学校より堀井学校長、通信制教頭の山崎先生、宝相華会の沢井会長様、ともしび会北谷会長様などからのご臨席を賜わりつどい会設立までのねぎらいのお言葉と今後更なる発展を期待しますとの重ね重ね暖かいご祝辞を頂戴し、つどい会の歴史の一頁を晴れがましく記すことになりました。又社会的にはサリン事件、阪神大震災で多くの尊い命が失われた年でもあった様に思っています。

つどい会は宝相華会にも参加させて頂き、つどい会の散策など県内の歴史的探訪などで楽しみ合い毎年のつどい会総会には新卒業生を迎えて学習の想い出や楽しかった事など語り合い、記念写真などと共に旧交を温め合い親睦を確かめ合ってきました。時は一秒たりとも待つてくれません。時代の流れや変遷などで社会的な学習方法も変化し、残念乍ら我が母校の通信制課程も変化の波と共に閉課程となり昭和二十八年に制定以来、五十四年の歴史を平成二十年三月末日を以って閉鎖され四月一日より大和中央高校へ定通制の独立校として開校される事になり、我が母校通信制の後輩達の顔や声を聞く機会もなくなり残念と言わざるを得ませんでした。奈良高校が母校であり、教室や諸先生方と別れた今も、想い出に変わりはありません。通信制であればこそ体験出来た四苦八苦の学習の反面、ソフトボールの大阪での校外試合、生活体験近畿大会、橿原陸上競技場での選手宣誓、卒業旅行など、楽しかった想い出は、今も私の頭の隅に残っています。

初代会長を至らずも務め二



第七十一回なら散策秋の部
 今回は、つどい会散策とし
 ては二度目になりましたが、
 ひさしぶりに馬見丘陵フラ
 ワーフェスタにでかけまし

なら散策便り

代中川様、三代会長を現在桑
 原さんに長期に亘って務めて
 頂きつどい会の更なる発展に
 も寄与して頂き、感謝してい
 ます。本年五月の二十五周年
 節目となるつどい会記念総会
 は、有意義なつどい会と旧交
 を温めたい出に花を咲かせ、
 歴史に飾るに、ふさわしい会
 となる事をご祈念申し上げます。



た。集合場所は近鉄五位堂
 駅。当日は「きんてつ鉄道ま
 つり」と重なり、何時もは
 ひっそりとしている五位堂駅
 は、人々人でごった返してい
 ました。改札でつどい会のメ
 ンバーをやっとみつけて会場
 に向かいました。見事に咲い
 たダリアにしばし見とれ、な
 つかしい友と語り、シェフの
 昼食をいただき、少し総会の
 打ち合わせをし、午後には解
 散しました。高齢化を感じ始
 めたメンバーですが、まだま
 だ、一〇〇歳までには間があ
 ります。次回を楽しみに、帰
 途につきました。皆様お疲れ
 さまでした。

つどい会の行事予定

・第七十一回なら散策 春の部

日時 行先 未定

・「つどい会発足二十五周年
 記念総会」開催予告

日時 令和二年五月二十四

日(日) 十一時

場所 ホテルリガール春日

野1F吉野

会費 五、〇〇〇円の予定

※五年に一度開催予定です。

お元氣な皆様にお会い出来
 ることを楽しみにしていま
 す。前回ご出席の皆さまに
 お願い。今回も是非お誘い
 合わせてのご出席、宜しく
 お願い申し上げます。詳し
 くは、まだ準備中のため後
 日お知らせ致します。
 ・宝相華会「令和二年度総
 会」

日時 令和二年四月十二日

(日) 十時

場所 ホテル日航奈良

※つどい会の皆さまのご参
 加、お待ちしております。

文化図書課長としての日々

本校教諭 柳 田 昌 則

平成二十六年四月に奈良高
 校に赴任して以来、早くも六
 年が過ぎようとしている。こ
 の間、学級担任、さらには学
 年主任をさせていただいたの
 だが、昨年度からは文化図書
 課長という立場にある。最初
 は戸惑うこともあったが、今
 ではやりがいを見つけ、むし
 ろ楽しく仕事に取り組んでい
 る。そんな文化図書課長とし
 ての日々について、紙面をお
 借りして語ってみたいと思
 う。

文化図書課が担当する学校
 行事はいくつかあるのだが、
 その中に「図書館文化講座」
 がある。課長になって初めて
 の図書館文化講座では自らが
 講師を務めた。通例では校内
 のどなたかに講師をお願いす
 るのだが、依頼する時間的な
 余裕がなかったこともあり、
 いっそ自分でやろうと思った

のである。テーマは『ビート
 ルズ・サウンドの魅力』初期
 から中期におけるサウンドの
 要は誰か？』だったのだ
 が、本音を言えば、私はビー
 トルズ・ファンであり、前か
 ら一度やってみたかったので
 ある。内容は彼らが使ってい
 るテンション・コードから、
 それぞれのコーラスのメロ
 ディー、さらには普通では考
 えられないコード進行など、
 かなりマニアックなもので
 あった。参加してくれた生徒
 たちや先生方よりも、私自身
 が一番嬉々としていたことは
 言うまでもない。ちなみに初
 期から中期におけるサウンド
 の要はジョージ・ハリソンと
 いうのが私の持論である。
 とところで、若者の活字離れ
 が叫ばれて久しい昨今だが、
 なんとかしてもっと多くの生
 徒に図書館に来てもらって、

本を借りてもらいたいというの思
いがあった。そこで考えたの
が、昨年度から始めた「季節
の図書館フェア」である。

記念すべき一回目は「夏の
遠藤周作フェア」だった。図
書館内の蔵書をかき集め、特
設コーナーを設けて本を並
べ、司書の石川さんと分担し
てそれぞれに紹介の説明文を
添えた。そして案内ポスター
を作り、校内の数か所に貼っ
て生徒の来館を促した。

遠藤周作といえば、『海と
毒薬』や『沈黙』といった重
いテーマを扱った作品から
『狐狸庵閑話』や『ぐうたら
人間学』といった軽すぎる
エッセイまでを手掛ける幅の
広い作家であるが、現高校生
にはあまり知られていなかっ
た。それでも興味を持った生
徒たちが、並べた本を手にと
り、実際に借りてくれもし
た。

図書館フェアには、生徒が
知らない作家の紹介という側
面もあるが、この最初の試み
は残念ながら多くの生徒の興
味を引くところまではいかな
かった。しかし次の「秋の温

故知新フェア」や「冬の筒井
康隆フェア」くらいから幾分
か手応えが感じられるよう
になった。そして今年度の「秋
のSFフェア」では、これま
でのどのフェアよりも生徒の
「食いつき」がよかった。そ
こで満を持して打ち出したの
が「ルパンVSホームズフェア
」である。これはもう推理
小説好きの私の提案である。
ポスターもこれまでのものと
は比べ物にならないほど芸術
性の高いもの（と自分では
思っただけに入っているのだ
が）にして、教室にも掲示し
てもらった。また生徒の興味
を引く工夫として、ルパンと
ホームズの人物比較表も作成
した。結果、このフェアもか
なり手応えの感じられるもの
となった。「図書館フェア」
は、あれこれとアイデアやス
トラテジーを考えるのが好き
な私にとっては、自分も楽し
める活動となっている。

今年度の文化鑑賞会も思い
出深いものとなった。この行
事の計画は、本校として実施
可能な日、会場となるなら
100年会館の空き状況、そ

してパフォーマンスの興行スケ
ジュールという三点を調整し
なければならぬため、およ
そ一年前から始動する。今年
度はパントマイムを選んだ。
というのも一学期中は一、二
年生が城内学舎、三年生が法
蓮学舎に分断され、二学期に
なつてようやく全学年が揃っ
ての教育活動となるなど、特
殊な環境で、他にもなにかと
大変な思いをしている生徒た
ちに、難しい理屈抜きで屈託
なく楽しめるものを与えたい
と考えたからであった。しか
しいざ鑑賞してみれば、見ご
たえのあるパフォーマンスが
繰り広げられた。

パントマイムといえは
「壁」や「ロボット」等がま
ず思い浮かぶし、実際そう
いったものもあったのだが、
擬音語、つまりオノマトペと
パントマイムのみで四季を演
出しつつ描く男女の恋物語
や、病気の小さな子どもを育
てながら大道芸のバイオリン
で生計を立てている、ある
「バイオリン弾き」の物語
等、芸術性の高いものも演じ
られた。パントマイムとは、

笑いを生み出すばかりでなく
哀しみを伝えることもできる
ものなのだ、涙を流しながら
ら感じている私がいいた。そし
て一つ一つの演目にどれだけ
の努力が詰まっているかが感
じられた。

心に響くメッセージにもあ
ふれていた。周りにいる自分
にとって大切な人たちと、明
日も明後日も会えると私たち
は思っているが、それは幻想
にすぎない。ひよつとした
ら、今接しているこの時が、
その人と会う最後になるかも
しれない。だからこそ常にお
互いを、そして共有できてい
る時間を大切にすべきなの
だということ。そしてどんな
ことでも良いから一つのこと
をやり続けることの大切さ。
舞台は期待以上の素晴らしい
ものであった。

カンジヤマAくんこと藤倉
健雄さんとは、事前打ち合わ
せのために二人で話をする機
会に恵まれたのだが、常に
笑顔の気さくな人だった。私
の言葉に誠実に耳を傾け、尊
重し、認める態度で接してく
ださった。そして何より、若

い。年齢的には還暦を越え
ておられるのだが、聞けば毎
日欠かすことのないウェイト
トレーニングに十キロランニ
ング等、かなりストイックに
自分を追い込んでいるとのこ
と。しかしそれ以上に舞台上
立つことが楽しくて仕方がな
い、と目を輝かせておられた
のが印象的だった。まさにス
テージで語ったメッセージを
自ら体現している人であった。
記念品として舞台上で渡し
た奈良銘菓「さつま焼」も、
あの人のことだから九州へ向
かうフェリーの中で、笑顔で
賞味してくださったことだろ
う。そして今も「贈り物」を
届けに、全国を飛び回ってお
られることだろう。

文化図書課長としての仕事
は、もちろん他にもたくさん
あるのだが、その日々は充実
した楽しいものである。さ
て、次はどんな一手を打とう
か。



令和元年度 図書館文化講座のご紹介

奈良高校教諭・宝相華会事務局 小林 和博 (昭52年卒)

本年度は諸般の事情により例年行ってきた「創立記念講演会」を実施することができませんでしたので代わりに文化図書課の学校行事である図書館文化講座のご紹介をさせていただきます。

十一月二十一日(木) 十六時、本校図書館にて関係職員、希望参加生徒を対象に前半は本校教諭吉村 惇(現在奈良教育大学大学院にて研修中)、後半は草川倫太郎様(奈良教育大学大学院修士課程)の両氏によるご講演をいただきます。

テーマは「近代文学の論じ方―時代背景に着目して―」で、お二人とも写真にもありますようにホワイトボードを用いて生徒達にもわかりやすくお話をしてくださいました。前半ご担当いただいた吉

村 惇教諭は高校教科書にも取り上げられている夏目漱石の「夢十夜」第一夜を題材に時代背景とともに文学の読み取り方についてのお話でした。

第二部

〈近代文学の論じ方―夏目漱石・夢十夜〉

奈良教育大学大学院 吉村 惇

○ 「近代」の「文学」とは？ 「近代文学」の価値とは？

○ 文学作品を読むための「理論」について

○ 「ことば」とは何か？ 「ことば」の意味はどう決まる？

○ 「二項対立」で分析してみよう

夢十夜・第一夜 〈抜粋〉

こんな夢を見た。
腕組みをして枕元に坐っていると、仰向けに寝た女が、静かな声でもう死にますと云う。女は長い髪を枕に敷いて輪郭の柔らかな瓜実顔をその中に横たえている。真つ白な頬の底に暖かい血の色がほどよく差して、唇の色は無論赤い。とうてい死にそうには見えない。しかし女は静かな声でもう死にますと判然云った。自分も確かにこれは死ぬなどと思った。そこで、そうかね、もう死ぬのかね、と上から覗き込むようにして聞いて見た。死にますとも、と云いながら、女はぱつちりと眼を開けた。大きな潤いのある眼で、長い睫に包まれた中は、ただ一面に真黒であった。その真つ黒な眸の奥に、自分の姿が鮮やかに浮かんでいる。

〈中略〉

「死んだら、埋めてください。大きな真珠貝で穴を掘って。そうして天から落ちてくる星の破片を墓標に置いてください。そうして墓の傍らに待っていて下さい。また逢いに来ますから」、自分は

つ逢いに来るかねと聞いた。「百年待っていて下さい」と思い切った声で云った。

〈後略〉

近代とは何か。年代においては明治期からとなるが、元号が変わっただけでなく江戸期までの封建的な家制度を中心とする秩序が崩れていく転換期であり、人としてのあり方が変わった。個人が近代的自我を持ち始め、個人としての意識(自我)と従来の価値観を根強く持つ社会との葛藤が近代文学のテーマとなった。近代文学を論じるときも、読者は自分だったらという観点で受け止めるようになった。恋愛至上主義つまり女性の心理を追究することが文学の新たなフロムティアになったとも言える。

文学作品を読むためには、一般的なコミュニケーションにおける、二項対立においても言えることだが、作品は送信者から受信者へのメッセージを持つコンタクトであっ

て、そのメッセージは 1. 文法・語彙 2. ことば 3. メディア 4. 文脈・背景 等の様々な観点から捉えられるべきものである。つまり、作品を論じるには 作者論、読者論、メディア論、文脈論、テキスト論(ことば)等々の議論が可能になったと言える。

その中でも特に「ことば」の価値について考えてみる。例えば「赤」という言葉に注目すると、「ことば」の意味は隣にくるもので変わっていく。「赤」という言葉は



「青」に対しては「止まる」

「月」に対しては「太陽」

「白」に対しては「女性」

のように対比されるものによつて意味が変わってしまうものなので言葉をそういった二項対立で分析するという方法が有益だと考えられる。

この「夢十夜・第一夜」を

そのような観点で見ると

自分 —— 女

真つ白な頬 —— 唇の色

逢いに来る —— 死

日の出 —— 日の入

東 —— 西

土 —— 月

真白 —— 真黒

目を開ける —— 目を閉じる

など

現実 —— 夢

対立構造がくつきりと浮かび上がってくるように感じられる。(終わり)

第二部

〈江戸川乱歩の世界〉

奈良教育大学大学院修士課程

草川 倫太郎

【講演内容】

□ 自己紹介

□ 江戸川乱歩は何者か？

1, 現在の〈江戸川乱歩〉

2, 乱歩の登場と名前の由来

3, 探偵小説と秘密

□ 乱歩作品の魅力とは

1, 理知と猟奇―「D坂の殺人事件」

2, 徹底した相対主義―「一枚の切符」「盗難」

3, 読者を巻き込む物語―「赤い部屋」「人間椅子」

□ 「陰獣」を読む―作品の外部情報が読解に与える影響

1, 小説に付随する情報

2, 江戸川乱歩と大江春泥―作者情報

3, 「陰獣」は乱歩が書いたのか？―広告と代作

□ まとめ

第一部の夏目漱石と異なり今の生徒達にとってあまりなじみのない名前だろうからとまず現在の人気アニメの主人公「江戸川コナン」の名前の元になっていること、(ついでに「毛利小五郎」も)など意外に身近な存在であること

を示し、またこのペンネームの元は近代探偵小説の創始者とも言えるアメリカ人作家エドガー・アラン・ポーからとられていることなどを紹介された。

私事ながらポーの小説は中学生時代に読んでその推理の論理性と怪奇性にすごく衝撃を受けました。推理の面白さは「黄金虫」におけるキャプテン・キッドの暗号を解読するところが最たるもので、このアイデアは後にコナン Doyle のシャーロックホームズ「踊る人形」にも使われました。

アルファベットの出現頻度による文字の特定のくだりはわくわくしました。確かにアルファベットでは段違いに「e」がよく使われます。怪奇もので特別怖かったのが「振り子と陥穽」です。「モルグ街の怪事件」や「黒猫」も怖かったですね。

第一部と同じく乱歩の作品を読み解くにはやはり時代背景に着目することが重要で、乱歩作品の魅力の一つは(理知と猟奇)であり、それは乱歩が活躍した時代―大正末期

から昭和初期―の社会状況が大きく関係しています。当時の日本は社会の欧風化も進みつつありましたが、第一次大戦の軍需特需の反動による不況に加え

一九二九年米国に端を発した大恐慌の影響の直撃、また同時期東北地方を数年間襲った冷害による農村の疲弊など失業や貧困といった社会不安に国民が振り回されていた時代でした。その時代を象徴する言葉が「エロ・グロ・ナセンス」でした。よって乱歩作品は理知的要素とそれ以上に怪奇的、猟奇的な要素を持つています。また、乱歩作品は事件がきちんと解決されないことが多く、事件現場の個々の証拠物件から犯人を特定し、事件を解決していくわけですが、いったん解決した事件を自ら崩すこともしばしばあります。そして乱歩の真骨頂と言えるのが読者を巻き込んで物語を展開していくと



ころです。このあと取り上げる「陰獣」でもそれは遺憾なく発揮されていて、狙われた婦人の「怖い・気持ち悪い」感覚を読者にも味あわせながらストーリーが展開していきます。

「陰獣」を読む。あらすじ

実業家小山田六郎の妻小山田静子は過去にいきさつがあった平田二郎こと猟奇的探偵小説家「大江 春泥」に脅迫される。静子に落ち度はなく、春泥の逆恨みによる偏執狂的つきまといに怯えてい

る。理知的探偵小説家の私と「寒川」に出会い、相談として身辺警護を依頼する。静子に同情し、親しくなった私は卑劣な脅迫者から静子を守るため屋敷に足繁く通う。春泥の不気味で偏執狂的な度重なる脅迫に次第に神経を病んでいく静子。

このあたりの不気味さ、読者を巻き込んでいく描写は圧巻である。

春泥の脅迫状の文面の一部
『静子さん、今こそ私は君を見つげ出した。私は喜びに震えている。私は長い間小説の筋を組み立てるときと同じ喜びでもって君への復讐手段を組み立ててきた。最も君を苦しめ、君を怖がらす方法を熟慮してきた、』

『しかし君がたつて聞きたいというならば、私は私の復讐事業の一端を漏らすことを惜しむものではない。例えば私は今から四日前、一月三十一日の夜君の家の中で君の身辺に起こったあらゆる些事を寸分の間違いもなく君に告げることが出来る、』そして私の献身的な努力にもか

かわらず夫の小山田六郎の遺体が発見されることになる。ますます恐怖が募ってくるこのタイミングでなぜか春泥は失踪、文壇からも姿を消し、脅迫もなくなる。静子は安堵する。

しかし、釈然としない私は考えられるすべての材料から調査しある結論にたどり着く。

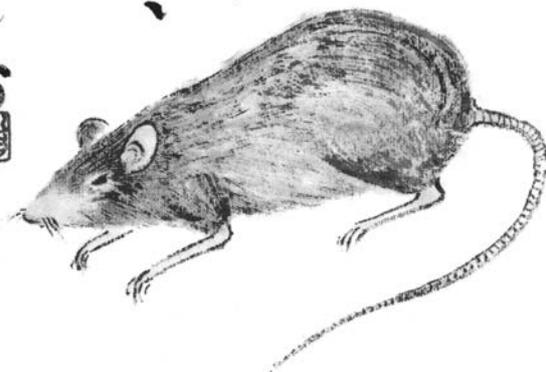
それはなかなか驚くべき結論であったが、その後静子とさらに深い関係になったことでそれは違うもう一つの結論に行き着いてしまう。つまり、私は証拠となったすべての材料を徹底的に調べ上げたが、一つ一つの証拠の持つ意味を取り違えたことは無くともその解釈をほんの少しずつ変えてつなげれば最後には初めとはまるで違った結論になったとしても不思議ではない。もしかしたらさらに第三の結論があるかもしれない。
乱歩作品に限らず探偵小説には驚きの結論が必要だ。「乗客全員が犯人だった」「そもそも探偵が犯人だった」「加害者と被害者が逆

だった」「誰かが作った殺人計画を別の人物が実行してしまっただ」「交換殺人だった」「自分のことを最も慈しんでくれた恩人を殺してしまっ

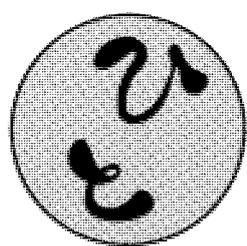
た」などなど、
以上、吉村惇教諭、草川倫太郎様ありがとうございました。



鼠、
中野美椰子



訃報



塩野美椰子 氏
(定昭42年卒)
ともしび会常任理事
(令元・12・1 逝去)
ご逝去に対し衷心より哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申しあげます。



部活名など	大会・コンクール名	部 門	賞	名 前	備 考
化学部	化学グランプリ2019 一次選考		支部長賞	本多 智揮	全国大会出場
	化学グランプリ2019 二次選考（全国）		銀賞	本多 智揮	全国大会出場
ハンドボール部	令和元年度第43回全国高等学校 ハンドボール選抜大会奈良県予 選兼奈良県高等学校ハンドボ ール新人大会	女子団体	2位	中井 真穂 戸田 栗佳 岡 ひなの 藤川 真衣 南田 遠見 河田 朋果 森田 明日香 白川 萌々香 森本 万慈	近畿大会出場
テニス部	第7回奈良県公立高校大会	男子団体	2位	北島 一樹 下枝 拓馬 大石 涼 奥岡 翔 村山 遼馬 松本 留久 神田 隼佑 長田 知大 中村 春輝	近畿大会出場
野球部	第92回選抜高等学校野球大会 『21世紀枠』奈良県代表				
バスケットボール部	第72回奈良県高等学校総合体育 大会 バスケットボールの部	男子Dブロック	1位		
		女子Aブロック	1位		
S S P 物理	令和元年度日本学生化学賞奈良 県審査		優秀賞	川上 慶悟 田口 明枝 中島 悠翔 山村 勇斗	
S S P 生物1	令和元年度日本学生化学賞奈良 県審査		優秀賞	吉田 弘陸 原 苑美 上北 爽乃 中村 香月 脇田 樹 喜多いづみ	
S S P 生物2	令和元年度日本学生化学賞奈良 県審査		佳作	池内 颯 松本明日菜 中川みなみ	
S S P 自然	令和元年度日本学生化学賞奈良 県審査		佳作	渡邊 華乃	
卓球部	令和元年度奈良県高等学校新人 卓球大会 第47回全国高等学校選抜卓球大 会（近畿地区予選会） 第34回近畿高等学校新人卓球大 会	男子団体	3位	橋本 陽色 井上 智裕 廣田 一真 吉田 佑馬 吉田 航 西 優洋 下田 蒼士 西濱 柁登	近畿大会出場
	第72回奈良県高等学校総合体育 大会	女子Cブロック	2位	大喜多美久 今出 真愛	
アーチェリー部	第38回奈良県高等学校アーチェ リー選手権大会	女子個人	3位	播 穂香	
コーラス部	第74回関西合唱コンクール	高等学校A	銅賞		
	第13回奈良ヴォーカルアンサン ブルコンテスト	高等学校の部	銀賞 金賞	コーラス部混声 コーラス部女声	

第35回奈良高校OB美術展のお知らせ

会 期 2020年3月24日(火)～3月29日(日)
 10:00～17:30(初日13:00開場 最終日15:30終了) 入場は終了30分前まで

会 場 奈良市美術館(ミ・ナーラ5階) 第1展示室
 〒630-8012 奈良市二条大路1丁目3-1
 TEL:0742-30-1510

特別出品 元奈良高校美術教諭 / **特別企画** 奈良高校在校生作品招待

昭和の卒業生から令和の学生まで、それぞれの創作活動の成果をご覧くださいと思います。
 ご来場をお待ちしております。
 奈良高校 OB 美術展 公式ホームページ
<http://naraobart.web.fc2.com/>



学 校 行 事



城内校舎風景



法蓮仮設校舎



球技大会



青丹祭・学校



青丹祭・100年会館



体育大会

また、奈良高校小林和博先生
 Mail: kobayashi-kazuhiro-01@npsed.jp
 ne.jp
 Mail: masareif@alto.ocn.np

藤原 正義(昭和36年卒)
 電話: 0742-26-3636
 Mail: masareif@alto.ocn.np

でも良いと思います。
 どしどしご連絡下さい。連絡は左記までお願いします。

会報の方は、今回も同窓生の皆様にお力を借りて、何とか会報誌宝相華も出来上がりました。お力添えも、本当にありがとうございました。いろいろの事ながら、原稿を集めるのがなかなか難しく、思っており、奈良高校時代の思い出、仲間たちと何かしなど、日ごろ感じていたことなど、文章にしても良いです。また、個展をやるか、演奏会をやるか、でも良いと思います。

本日、新たに奈良高等学校を卒業された皆様おめでとうございます。皆様はたは希望に燃えて、今日の日に臨まれたことと思います。これから、山あり谷あり、色々なことに会われるかと思いますが、奈良高校の先生が、同級生たちの力を借りたり、また貸したりしながらどうにか、充実した人生にしてください。

編集後記

(藤原正義)